



The Y's MEN's CLUB of

もりおか



<VOL130.2018.10>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長	Moon Sang Bong (韓国)
アジア地域会長	田中 博之 (日本)
東日本区理事	宮内 友弥 (武蔵野多摩)
北東部長	涌澤 博 (仙台青葉城)
もりおかクラブ会長	三田 庸平

「私達は変えられる」
「アクション」
「為せば、成る」
「チャンス到来、我ら北東部から世界へ」
「繋がりを大事に、見据える世界の扉」
副題「ワイズの明るい未来を見つけましょう！」

今月の聖句 箴言13編2節

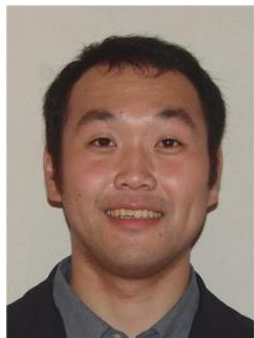
 「口の言葉が結ぶ実によって、人は良いものを教授する。」

会長	三田 庸平
副会長	長岡 正彦
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	浅沼 慧 (しどう)
	中村 渉 (チャン)

11月定例会のご案内

日時 平成30年11月10日 (第2土曜日) 18時30分
場所 ジャーラン ジャーラン 2,000円
通常の定例会です。
第二例会 10月16日(第3金曜日) 18時30分
場所 駅前通り。「じよ舎」

三田会長巻頭挨拶



三田会長

一段と寒さが増した盛岡。白鳥が来た話も無い込んできました。そして、紅葉がきれいに輝きはじめました。もうこの時期が来たかと思っております。さて今月の第1例会でのゲストスピーチでは、福島スタディーツアーに参加したYMCAのメンバーによる報告

会をして頂きました。福島の現状について地区ごとに話をして頂きました。ワイズの皆さんも様々な事を知り、関心を寄せていました。様々な取り組みを通し災害に目を向けて、風化させないことも大事だなと実感いたしました。また、井上メンには改めてアジア太平洋地域大会のアピールもお願いいたしました。「盛岡からも是非盛り上げていきましょう」と盛り上げの一言を頂きました。盛岡からパワーを送れたらと思っています。そして、最近の出席者が多く賑やかに例会が進んでいるのが嬉しくて仕方ありません。現メンバーも大事に、新メンバーの増強を目指してもっともっと楽しく・賑やかな例会そしてクラブになっていけたらなと思っております。

10月定例会の報告

平成30年10月13日(金) ジャーラン・ジャーランにて開催、三田、山口、井上、井上優子、大関、魚住、中原陽子、村上、長岡、濱塚、古澤、浅沼(敬称略)。ゲスト、安恒史織さん(レモン)、小野寺保乃香さん(チーズ)、伊藤陸さん(ショッカー)、菅野真矢さん(かきピー)、小岩壯太さん(いわぞん)、尾河芽生さん(ピリケン)以上YMCAボランティアリーダー。武田悠さん(ゴリナ)、向平悟さん(ジーパン)以上YMCAスタッフ。山本義文さん(日本政策金融公庫)。以上21名の参加で開催されました。

本日は、先月行った盛岡YMCAの福島スタディーツアーの報告発表を行うため、ツアーに参加したリーダーやスタッフが大勢参加してくれました。放射能汚染にまだなお苦しんでいる福島の現状を理解し、問題点やこれからの対応、知らなかった現実、知ったあとの考察や感想、若いリーダーたちの率直な思いを例会の場で発表していただきました。この後特集しております、お楽しみに。また、山本義文さん(日本政策金融公庫)が駆けつけてくれました。神戸YMCAのリーダー出身です。全国に名の売れた与島のリーダーでした。山本さんが福島スタディーツアーの報告を聞いて、感想を述べられましたので、特集の前に山本さんの感想を予告編のようなイメージでアップしました。



山本義文さん

力のある方、ぜひ私の会社に応募してください。」

ようこそクラブ例会に歓迎いたします。例会は活動が活発に

「私には子どもが二人、リーダー達と同世代の女の子がいます。比べるとリーダーたちのハイレベルにびっくりしました。問題意識の高さ、見聞きした事に深く考える、そして自分の意見をまとめる。すごいなと感じました、みなさんどうでしたか。私は北東北の新人採用を担当しております、皆さんのような考察力、プレゼン

なっているワイズメンズクラブの活動報告がなされました。メネットの集いに参加した中原陽子さん、ツアーでのエピソードに大いに笑い、感動いたしました。



10月定例会集合写真

福島スタディツアーの報告、感想発表。

こんばんは、福島スタディツアーのご報告をさせていただきます。目的は、「福島の被災地や被災者の方々の思いを知り、震災を肌で感じる。その体験を帰郷してから周囲の人々に伝えられるようにする。」でした。

もしあなたが福島スタディツアーに参加したら何を考えますか？、どんな事を感じたいですか？。事前学習で復興の現状や風評被害について知りたい。現地でしか知れない事を知りたい。居住可能地域と不可能地域への興味。原発について知りたい。という考えをまとめました。

放射性物質とはセシウム、トリチウムなど物質の名前です。放射線は α 線、 γ 線、 β 線など。放射能は放射線を出す能力の事です。放射線の値をマイクロシーベルトという単位で表現します。避難指示解除の3要件は、年間積算線量20mシーベルト以下(1時間2、2 μ Sv、1日54、8 μ Sv、年間20000 μ Sv)単位記号 $\mu=10$ のマイナス6乗、m=10のマイナス3乗。この20mSvは福島の原発事故後現れた数値で、その前は1mSVでした。なんと20倍の許容値を設定されてしまいました。レントゲン技師などは10mSvですから、なぜ福島は20mSVなのでしょう。1トンの土が入る袋をトン袋と言います。汚染された土を入れて積み重ねて置いてあります。5個重ねて約5mの高さで壁のようにあちこちに置いてあります。原発の安全神話で、原発は安全だと地元の人々は思っていたそうです。原発の恩恵を受けて、恩恵が無い人たちはかわいそうだと思っていたそうです。避難指示が出たときも原発事故のせいだとは思わず、地震や津波のせいだと思わずか3日程度の準備で避難したら、もう戻れない現実をその後知ったとの事でした。原発について知った事、東京の電力の3分の1を福島で担っていた。エネルギーの植民地という表現もあります。チェルノブイリの反省が生かされていない。海外の反応は150Km圏内からの退避を指示した。汚染地域に戻ろうとした人々に対しチェルノブイリでは認めたのに、日本ではまったく認めない、避難生活で崩した体調が自宅に戻った後良くなったという事例などはまったく考慮されていない。原発の放射性物質の廃棄の方法は決まっています。太陽光パネルの廃棄方法も決まっています。

南相馬市北部、鹿島区について。原発の位置からは離れています。津波の被害や原発からの避難した方々が仮設住宅で生活しています。仮設住宅の造りは、隣のひとの声が聞えたり、雨漏りがしたり、人が住むには適していない簡易的な物です。外

で遊べない子供の肥満、大人的生活習慣病が問題になっています。子どもたちがいろんな経験をして成長していく機会が奪われることに憤りを感じました。行くあてのない人、高齢者が多く孤独死など震災関連死が多発しております。震災関連死は岩手で464人、宮城で926人、福島で2202人、この数字どう思いますか。県外避難者は岩手の30倍、宮城の7倍、3万4419人へのぼります。

原町区について。原町区は約4万2000人の人口です。震災前は4万7000人、放射線量は5年前は0.2、現在は0.08です。鹿島区の南に位置していて、原発20Km圏の少し北側で1部が20Km圏にかかっています。南相馬市消防防災センターには南相馬市の被害状況の記録、災害対応、対策、防災情報などが展示されています。ここの隣にある南相馬市病院では、避難者が多数にのぼり、薬、食料が枯渇してしまいました。当時の市長、桜井勝延さんはユーチューブにSOSを発信して全世界に救援を依頼しました。原町協会・原町聖愛こども園の園長先生のお話です。運動場の木を伐採、土の表面を剥がして30分なら外で遊んでもいいという環境まで除染したという事を伺いました。

小高区について。原町区の南に位置していて、ほとんど原発20km圏内です。人口は1万3000人から2800人まで激減してしまいました。帰還困難地域に指定されましたが、現在は解除になっています。「おだかぷらっとほーむ」というコミュニティでお話を伺いました。「3.11に何が起きたか覚えていますか」の問に当時こどもだった私達でしたが、おのおの鮮烈に記憶しております。「3.11の1年前はどうですか」の問いは、全く記憶が無い状況です。恐怖や混乱、その後の支援に感謝したり安心したり、そんな事を忘れず今後に生かして行くことが大事なのだというお話をおたき全く同感です。という気持ちになりました。現人口の2800人は減った数字ではなく0から2800に増えた数字だというお話は希望があるという事で、前向きな考えだと思いました。

浪江町について。町全体の3分の2が帰還困難区域になっています。2万1000人の人口が234人、帰還しないと決めている方々が49.5%へのぼります。浪江駅に向かう景色は、水田が雑草地に変わり、除染で出たトン袋があちこちに積み上がりまるで防波堤のようでした。役場付近はコンビニや食堂がありますが、放棄された建物が多数存在しております。請戸小学校に訪問しました。津波の直撃を受けましたが、ある子どもの意見で先生、生徒全員が助かった小学校です。原発から14Kmにある希

望の牧場に伺いました。警戒区域内の家畜は殺処分の指示がでましたが、指示に従わず牛を守り通しています。牧場の建物内に20kmの境界線が赤く表示しており、建物の入り口が南相馬市側にあったため出入りができたとの事でした。牛の皮膚には白い斑点ができており、放射能の影響なのでしょう、しかし国側はわからないとの解答でした。震災後東京に出向き現状を訴える活動を継続しています。

双葉町、大熊町、富岡町について。双葉町は、ほぼ全域帰還困難地域です。放射線量は1.1μS。大熊町は、原発がある町で帰還困難地域です。富岡町は一部帰還困難地域です。この地域では、バスから降りられず、エアコンは社内循環を指示されました。町内至る所にバリケードがあり、通行証がないとバリケード内には入れません。帰還困難地域と解除された地域の境界線の住宅では道路を堺に帰還困難住宅はバリケードで封鎖されていますが、解除されている住宅にはバリケードはありません。その差はほんの数メートルです。どちらも草木に覆われて、人の気配はまったくありません。東京電力からの保証金が出る境界線なのです。全くナンセンスです、人が暮らせないのにはまったく同じなのに、政治の矛盾や東京電力の誠意ない対応に憤りを感じました。同地域の住民のコミュニティが崩壊していると聞きました悲しい事です。

参加したリーダーたちの感想。原発について知りたいという気持ちで参加しましたが、行く前の気持ちがすごく軽かったと感じています。何も知らなかった事に恥ずかしさを感じています。印象に残っているのは2020年のオリンピックがあります。家を建てるにしても大工さんがそれにとられていて、日本でオリンピックなんてやっている場合じゃないのでは、と考えています。

福島被害の現状を記憶から風化させないで思いを繋げて行きたいです。

事前学習と現地での体験のギャップに愕然としています。7年半たった今でも、福島は時計が止まっています。見たこと、聞いたことを多くの人たちに伝え続けて行きます。

原発事故の事が怖かったです。でも現状を見たくて参加しました。復興ってなんだろうと自分に問かけています。7年の月日が虚しいと感じています。

今回のツアーで、現地の方々の声を聞いて、知っていた事と聞いて初めて理解した事のギャップに驚きました。次回、同様のツアーがあったらもちろん参加しますし、自分の周りの人々に伝え続けて行きたいと考えております。

私の実家はいわき市です。いわき市も原発被害は受けましたが、当事者の市や町には行ったことがありませんでした。実際に訪問してみて、同じ福島県民として何も知らなかった事が悔しくてたまりませんでした。避難先でのコミュニティの構築は大変です、いわき市でもそれはありました。眼の前の信じられない出来事に対して、自分の事のように考えられるか、行動できるか考えさせられました。

日本は、自然災害が3.11の後も絶えません。災害被害の風化をどのように防ぐか、考えさせられました。

福島スタディツアーを企画運営した盛岡 YMCA の行動力にも驚きましたが、参加したリーダー達の真剣な考察とその後の意見発表は、まさに驚くべき物がありました。もりおかクラブ、盛岡 YMCA の宝であり、財産です。

「フリテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

10月の出席率	10/14	71 %	ゲスト9名	ビジター0名	メネット2名
メーキャップ	1	名		10月切手	15 g 累計 323 g
10月のにこにこ	20,500	円 累計	40,500 円	10月プルタブ	115 g 累計 22,350 g
10月 石鹸	1,610	円 累計	1,610 円	りんご	0 円 累計 円
10月 献金		円		ファンド合計	34,410 円

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

10月のハッピーバースディ 10月14日 長岡 正彦メン おめでとうございます。

今年最後のぽんぽこ市に富士宮やきそば出店

今年からはじめた盛岡ワイズのファンド、富士宮やきそば販売ですが、今年4回目のポンポコ市に出店しました。今年全4回の市でしたが、4回とも晴天に恵まれ、無事終了できました。今回は、濱塚メン、村上ウィメン、リーダーより小野寺保乃香さん(チーズ)、昆由理絵さん(ゆりぼー)のご協力のもと全100食完売しました。ありがとうございました。

前回、本部主催のイベント流しそうめんにお客様を奪われ、



ぽんぽこ市今年最後の出店

散々な結果に終わってしまいましたが、最終回は長岡メネットの野菜販売とコラボして、客引きは抜群。ゆりぼーの耳に心地よい声かけも加わり、1声2食のペースで販売が続き、

ぼんぼこ市の終了1時間前に100食販売完了となりました。約2万円の利益を出し、クラブとユース委員会に献金いたします。

やきそばの焼き方や、味付けに自身が湧いてきました。今年のはあと、11月の中旬に、前潟学童のお泊まり会でやきそばを振る舞います。そ～いえば、9月の台風24号接近の土曜日に向中野学童のバザーで、やきそば販売も行いました、長岡個人は今年7回、やきそばの出店を行いました。やきそばの手順や焼き方も板について来たように思います。この調子で来年はもっと出店に機会を増やして、ファンを造りたいと考えております。

東日本大震災アーカイブス、2014年6月掲載 陸前高田市、復興への地響き。

今年の春から、川向かいの山を削り大量の土を運ぶためベルトコンベアが稼働開始しました。そのベルトコンベアは被災地中心部へ向かってどんどん増設しております。先端には大量の土が山になっており、それを超大型のホイールローダーが、超大型のダンプに積み込み、どさっと運びます。100tクラスの大型重機です。待ち受けるのは、これも超大型のブルドーザー。平坦になりますが、どんどんかさ上げの土地が出来ていきます。最大12mの高さまでかさ上げするとの事。かさ上げの土地利用に関しての不安が最近の新聞にでておりましたが、まさかその不安の通りの土地利用や建物を作るはずはありません、ここは日本ですから。それよりも、3年前の津波の高さよりは低い高さまでしかかさ上げしない方が気になります。防潮堤や建物の構造などで対応するのでしょうか？ いろんな見方や意見がでていますが、陸前高田市は復興に向かってどんどん走り始めています。三陸道も仮設市役所近くの高田ICまで開通しました、接続の延長道路も工事の真最中。市内のいたる所で、宅地の造成工事も進んでいます。走っているダンプカーの4台に1台は県外NOの車両です。1か月足が遠のくと変化にびっくりいたします。

盛岡市を西側から見下ろすと！

盛岡市を展望するといえば、岩山展望台です、東側から盛岡市と岩手山を展望するのが一般的で、観光ガイドに乗っているのもすべて東側からの景色ですが、マリオス展望室からの景色は西側から盛岡市を展望する光景でした。左利きのゴルファーとラウンドするような違和感を感じながら、盛岡市の景色を眺めてきました。



北上川と明治橋の光景



盛岡市内と姫神さんの山並み



おなじみ、岩山展望台と第二展望台

編集後記

「大根が大嫌い。」長岡の代名詞です。その私が大根を手。秋が深まり、11月はもう初冬の季節になります。木の葉が散り、雪を待つだけのなんと寂しい季節を迎えます。半年ぶりに、「もしか君」登場！草刈り後の柔らかい草を食

会員の皆様、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



え！、まさかの大根踊り？……

高田松原の松の子孫たちはすくすくと育っています。数百本まで増えているそうです。松原を再生する土木工事が完了すると移植作業にとりかかるとの事です。生きている間に高田松原の再生は見られないと思っておりましたが、もしかして近い将来には松原の姿を想像できるくらいまで再生は進みそうです。壊れたものは元には戻せませんが、新しく創造していくのは元気が出ます。頑張れ！陸前高田市。



中心部に迫るベルトコンベア



100tクラスのダンプカー



開運橋です

マリオス展望室から岩山展望台と第二展望台を見上げました。少し紅葉が始まった山の景色の中に、なるほど、こういうふうに見えるのか。左側には愛宕山展望台も見える。開運橋を立てに見降ろすのは初めての光景。この景色も盛岡なのですね。



「もしか君」登場

べていました。こんにちは、頑張って冬を乗り切いなよ、また会おうぜ。

では皆様、また来月 長岡